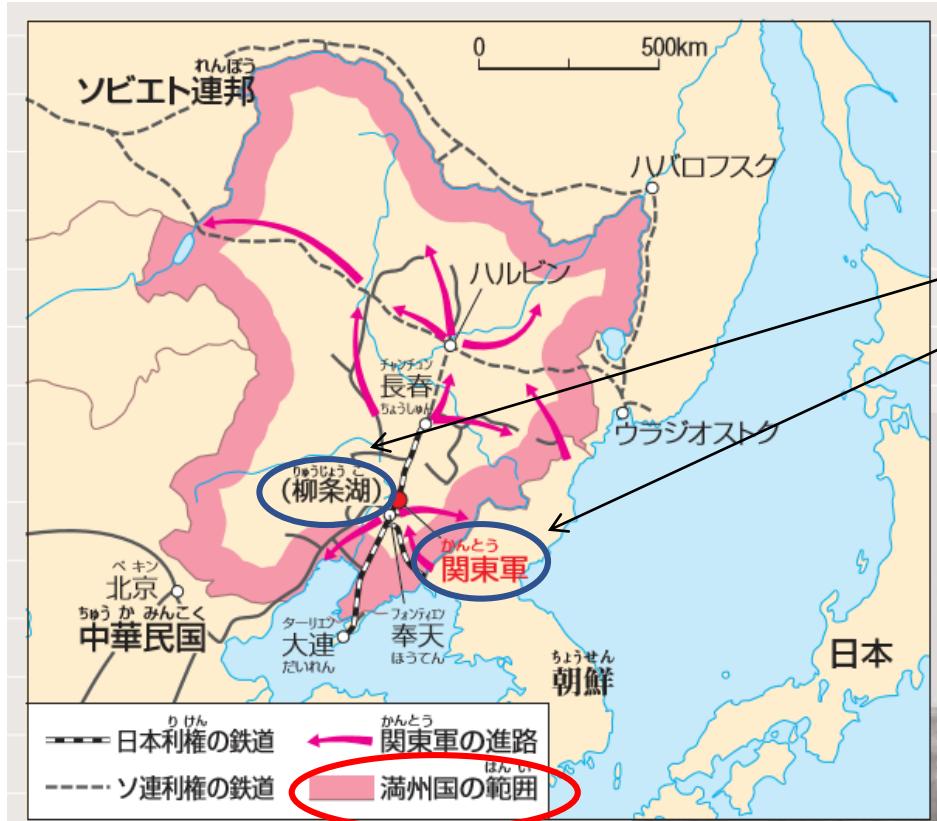


# 満州事変



## ① 満州事変

世界恐慌で経済が苦しくなった日本では軍隊の中から他国を侵略することで世界恐慌から脱出しようという動きが起こる。



1931年に満州を中国から切り離して支配しようとして、満州に配置された日本軍（関東軍）が奉天付近の柳条湖で南満州鉄道の線路を爆破。



関東軍はこの事件を中国のせいにして満州へ出兵し占領。



このようなできごとを**満州事変**という

# 満州国 の建国



溥儀

## ④ 「満州国」の建国式典(1932年3月9日)

溥儀の左に、関東軍司令官、南満州鉄道株式会社の総裁がならんでいます。

日本は清の最後の皇帝であった溥儀（ふぎ）をリーダーに**満州国**を建国したが、実質は中国から土地を奪って日本人を移住し、日本の企業も多数進出する**日本の植民地**であった

# 五・一五事件



⑥五・一五事件を伝える新聞記事  
(「東京日日新聞」1932年5月16日)

この前日の**1932年5月15日**に  
満州国は政府にだまつて勝手に關東軍がつくった國  
なので平和を目指す政府の方針に反するとして承認  
しなかつた**犬養毅**首相を海軍将校が**暗殺**する事件  
が起きる。  
この事件を**五・一五事件**という。

犬養毅の暗殺により、選挙で多数を占める政党  
のリーダーがおこなう**政党政治が終わり**、軍人  
が政権をにぎるようになった。

# 満州国の不承認と国際連盟脱退



⑨国際連盟脱退を伝える新聞記事（「東京朝日新聞」1933年2月25日）

中国は満州事変の調査を国際連盟に依頼、その結果鉄道の爆破は中国のしわざではなく**満州国を認めない**という結論が出る



国際連盟の結論に納得できない日本の軍人勢力は**1933年に国際連盟を脱退**。



日本は国際的に孤立することになった

# 二・二六事件



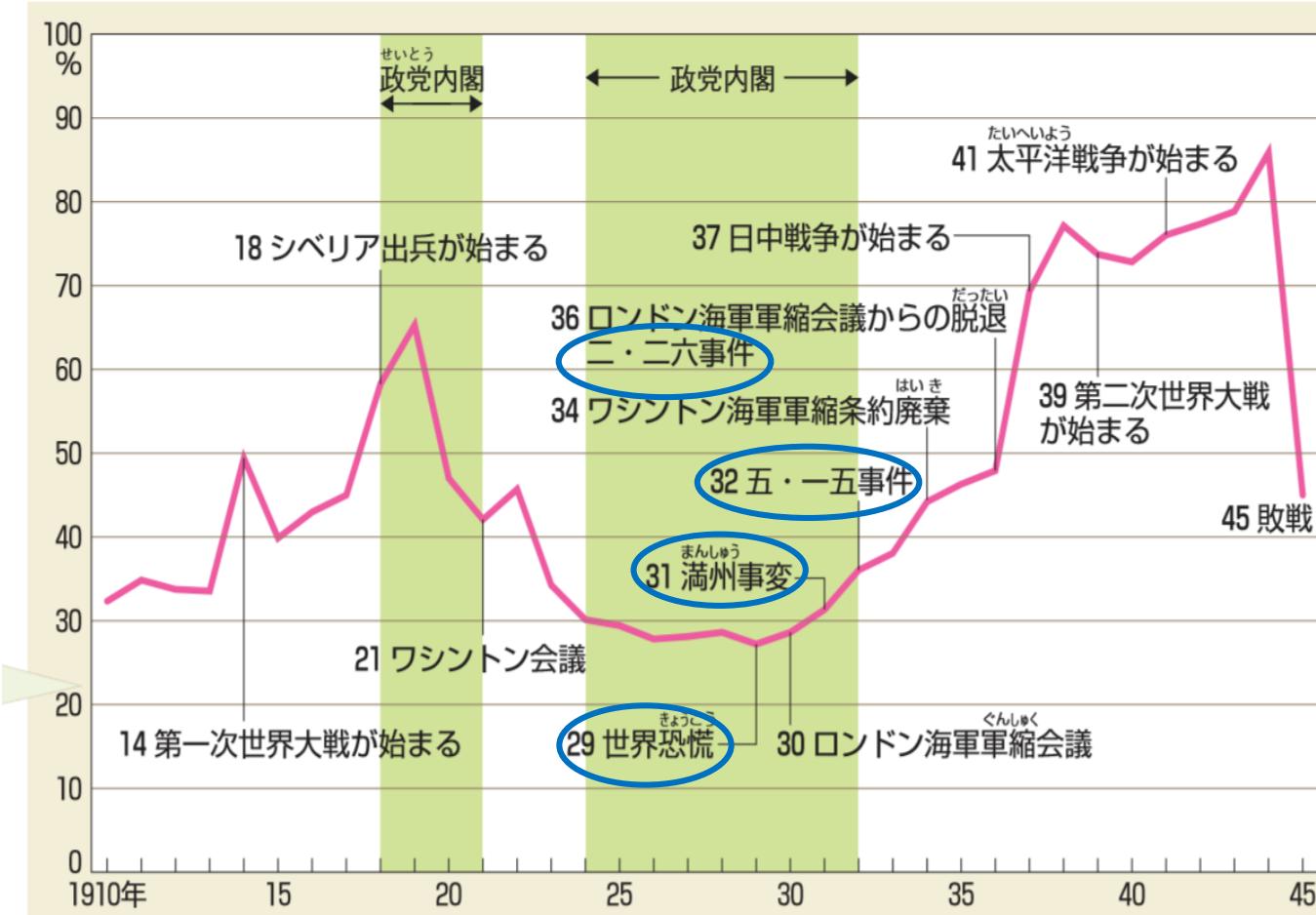
⑦二・二六事件を起こした部隊

1936年2月26日

陸軍将校が軍事独裁政権を目指して首相や大臣などを襲撃する**二・二六事件**が起きる

五・一五事件と二・二六事件という2つの事件をきっかけに**軍部の発言権が強まり**、日本はドイツなどのファシズム諸国に接近していきました

# 軍事費の割合の移り変わり



1929年に世界恐慌が起こって以来、1931年の満州事変、1932年の五・一五事件、1936年の二・二六事件と進むにつれて、軍事費がどんどん増え、軍の勢力が拡大していることがわかる